

平成22年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立可児工業高等学校 学校番号 42

I 自己評価

1 学校教育目標	<p>教育活動のあらゆる場をとおして、知・徳・体・技の調和のとれた地域社会から期待される人間性豊かな工業技術者を育成する。</p> <p>(1) 信頼と愛情に基づく指導体制を確立して、ほほえみと感動のある学校教育を推進する。</p> <p>(2) 生徒一人一人の目的意識の確立と高揚を図りつつ、他を思いやる人間性豊かな生徒の育成に努める。</p> <p>(3) 新しい技術に対応でき、たくましく「生きる力」を身につけた工業技術者の育成を図る。</p>	
2 評価する領域・分野	◇ 教務部	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・本校の学習について、個人の興味・関心、希望に合った選択授業や少人数指導を展開し、また、個々の生徒に応じた指導が行われていると、生徒及び保護者から回答された数値が高く理解されていると見られる。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>(1) 基礎・基本の定着と主体的な学習態度の育成を目指す。</p> <p>(2) 豊かな人間性と、自主的・実践的な態度の育成を目指す。</p> <p>(3) 職員研修の充実。</p>	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・基礎・基本の定着を重視し、教科の修得認定に至る指導の手続きを明確にし、不振者に対し学習に取り組む時間を設定した。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<p>(1) 基礎・基本の定着の徹底</p> <p>(2) 職員研修を充実した。</p>	<p>(1) 学業不振科目の撲滅の向け、学業不振者を、一定期間の放課後に設定して、学業に取り組ませた。これにより不振科目を減少できた。</p> <p>(2) テーマ「本校の課題解決と活性化を図る」とした研修会を3回実施した。</p>	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・6～8月において、学業不振者を放課後に設定し、学習の徹底を図った。 ・職員研修会で、喫緊の課題と長期的な課題などを見つけ、来年度は基礎学力向上委員会として取り組むことに決定した。 	<p>① 実施状況</p> <p>② 実施内容</p> <p>③ 効果など、結果の分析</p>	<p>A <input checked="" type="radio"/> B C D</p> <p>A <input checked="" type="radio"/> B C D</p> <p>A <input checked="" type="radio"/> B C D</p>
11 成果・課題	<p>○ 入学した生徒たちの、基礎・基本の理解度を、統一的に判定できるような機会を得ることができた。</p> <p>● 生徒たちが、定期考査などに向けての取組みを、自ら計画を立て実行できることが求められる。</p>	
総合評価 A <input checked="" type="radio"/> B C D		
<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <p>○ 基礎・基本を重視し、入学して早い段階で、学習に対する態度や姿勢を向上させれるように、オリエンテーションの充実や、学年・学科などが組織としての連携を深め、生徒たちがより自己実現力を身に付けられるようにしていきたい。</p> <p>○ 1年間の学習の成果を、客観的に得られるようにしていきたい。</p>		

2 評価する領域・分野	◇ 生徒指導部	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>【外部評価より】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒のことをよく理解していて、1人1人に合った生徒指導をしている。について生徒70%・保護者62%がそう感じている。 ・高校生としてのマナーや社会規範を身につけさせることや、相応しい服装やマナーの徹底を図っている。について生徒85%・保護者81%がそう感じている。 ・学校はいじめや差別を許さず、厳しく対応しているについては、生徒78%・保護者64%がそう感じている。 <p>今後も、基本的な生活習慣の確立させ、授業規律をさらに向上させるよう支援していきたい。</p>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>◇</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生命の尊厳・人権意識の高揚を図る（いじめの完全撲滅・交通事故防止） ・けじめ指導（公私のけじめ・・・あいさつ・マナー 時間のけじめ・・・遅刻0運動 善悪のけじめ） ・規範意識・倫理観の高揚（問題行動の撲滅） 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・教師間の連携：遅刻0習慣・あいさつ運動キャンペーンの実施。担任をサポートするために学年会・各科との連携を緊密にする。 ・保護者との連携：保護者懇談会の実施（年2回）・生徒指導便りの発刊 ・毎月1回の全校朝会：全校生徒に学習面・生活面で1ヶ月の目標をもたせる。 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> (1) (時間のけじめ指導) 遅刻0習慣キャンペーンの実施・・・毎月1週間実施 (2) (公私のけじめ指導) 爽やかなあいさつキャンペーン実施・・・懸垂幕を掲揚し年間を通して実施 (3) (教育相談の充実) 子どもの居場所を確保 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 全校の遅刻総数を年間250以下にする 毎月の職員会議で数値を提示し、学年単位で基本的な生活習慣の再構築を視野にいれて支援にあたる (2) 学校生活全般で意思疎通をはかり、共通指導体制を図る (3) 教育相談の日常化に努める 	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻0習慣キャンペーン ・毎月1回の全校集会 ・生徒主体の活動（ボランティア活動・共同募金など） 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒が遅刻することなく登校しているか。 ②1ヶ月間目標をもって取り組めたか。 ③積極的に取り組めたか。 	<p>Ⓐ B C D</p> <p>Ⓐ B C D</p> <p>A Ⓑ C D</p>
11 成果・課題	<p>○「時間のけじめ指導」の一環として取り組んでいる「遅刻0週間キャンペーン」は地区の生徒指導重点目標の一つでもあり、全職員で取り組んでいる。前年度に比べ数値が下がり、結果として3年生の3ヶ年皆勤者が100人を越える好結果であった。</p> <p>○毎月1回の全校集会の実施は、学習面・生活面など短いスパンでの目標達成に効果的で、特に、遅刻指導・不審者情報・進路情報・県よりの伝達事項・最近の生徒の様子などの周知徹底に繋がった。</p> <p>●教育相談においては、愛情不足を訴える生徒に対しての対応（教育相談の日常化）など積極的な教育相談を通して、今日的課題でもある「発達障害への対応」や「自己教育力の向上」「自己存在感の承認」「目的意識の啓発」などの諸能力を育むよう「生徒の居場所を学校に！」をスローガンに支援してい</p>	
		<p>総合評価</p> <p>Ⓐ B C D</p>

	<p>くことが、肝要に思われる。</p> <p>● 授業規律の確立、家庭学習の習慣化が今後の更なる向上のポイントと見られる。</p>	
<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <p>・生徒指導の支援全般が生徒の基本的な生活習慣の確立→授業規律の改善→学習意欲の向上→確かな学力に繋がるような次年度の課題としたい。(エクステンション型)</p> <p>・生徒主体の活動が学校から地域へ発進するように支援していきたい。</p>		

2 評価する領域・分野	◇ 進路指導部
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒に適した進路情報を示し、生徒の可能性を引き出そうとしているについて、生徒76%・保護者73%がそう感じている。 ・生徒の進路希望に沿った適切な進路指導をしているについては、生徒86%・保護者77%がそう感じている。 ・今後もキャリア教育の充実と進路支援に力を入れていきたい。
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇自己の在り方生き方を考え、主体的に進路を選択できる能力や態度を育てる。
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・教師集団との連携・・・HR 担任の活動を支援するため各学年会、専門学科との連携を深める。 ・保護者との連携・・・保護者懇談、PTA 総会時に進路情報の提供。 ・産業界・関係行政機関との連携・・・企業の方との懇談、ハローワーク等からの支援、企業側との連絡調整を密にする。

6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標
<ul style="list-style-type: none"> (1) ガイダンス機能の充実 (2) インターンシップの全員実施 (2年生) (3) 面接指導、基礎学力定着指導、小論文指導 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 就職希望者全員内定(100%) (2) 進学希望者全員合格(100%)

8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師による進路ガイダンス:5回実施 ・マナー指導、面接指導 (2回:PTA 参加) ・進学者面接指導、小論文指導 ・地元企業見学会 (生徒主体) ・職業適性検査、SPI2 模試、クペリン検査の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒にとって有効なガイダンスであったか。(感想文より) ②進路指導の行事が適切な支援であったか。 ③進路実現・決定に役立ったか 	<p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p>

11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○就職希望者の全員内定、進学希望者の全員合格を目指し、校内外の支援体制も整い、当初掲げた目標をほぼ達成することができた。 ○他の分掌とも協力し、キャリア教育の充実に向けて、全職員で取り組む環境づくりができた。 ●就職内定者に対する内定後の指導には一考を要する。(学習意欲の欠如等) ●安易な進学希望者に対する指導、合格後の学習指導の在り方に工夫を要する。 	<p>総合評価</p> <p>A (B) C D</p>
----------	--	------------------------------

<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <p>・早い時期から進路情報資料を提供し、適宜キャリアワークブックを活用して自己実現を図る。</p> <p>・就職希望者に対しては、厳しい状況になるので、基礎学力を付けさせる。(時間の確保と粘り強い指導) 危機意識を持たせ、面接指導等を徹底する。</p> <p>・進学希望者に対しては、明確な志望理由を書かせ、高い志を身につけさせる。(志望理由書提出)</p> <p>・インターンシップの充実をとおして、勤労観・職業観を身につける。(ガイダンスの強化)</p>		
--	--	--

2 評価する領域・分野	◇ 特別活動
-------------	--------

3	現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事に対して、成長の糧となることを期待している。 ・部活動が活発に行われているという認識があり、満足している。 ・ボランティア活動については、機会を多く設けてほしいと望んでいる。 	
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇ 生徒の自主的、実践的な態度が育まれ、一人一人が大切にされ、生きる力に繋がる指導の充実を図る。	
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・部顧問会議、部長会を通じての問題提示、参加呼びかけをする体制。 ・行事等の機会をいかし、HR等へ積極的参加を呼びかける体制。 	
6	目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
	(1) 校内、地域ボランティア活動への参加。 (2) 行事における委員会活動への働きかけ。	(1) 参加の人数、規模。 (2) 行事当日の生徒の動き、アンケート結果。	
8	取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
	<ul style="list-style-type: none"> ・3回のボランティア活動は、部活を中心にでの参加。 ・体育大会の準備の段階から、応援団との連携、当日の執行部の動き等のイメージを持ちながら協力して取り組ませた。 ・各団長による全校生徒への校歌指導。 ・可児工祭での各クラスの取り組み。 	①生徒が自主的にボランティア活動に参加し行動したか。 ②行事当日の生徒の動き。 ③民主的な雰囲気の中で行事に向けて話し合いができたか。	(A) B C D A (B) C D A (B) C D
11	成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○2回の校内ボランティア清掃、可児市の可児川一斉清掃の地域ボランティアへ平均150名以上の参加があり、当日は積極的に活動していた。また、毎朝いくつかの部が早朝から校内の敷地内を清掃している姿あり、ボランティア活動が定着しつつある。 ○各団長がステージ上で全校への校歌指導を行い、リーダーシップを発揮することができ、自主性を育てる機会になった。 ○可児工祭では各クラスの特徴ある発表が多くあり、地域にアピールできた。 ●可児工祭は一般公開で行ったが、当日の生徒の動きに積極性が感じられない部分もあったので事前の取り組みが重要である。 	総合評価 A (B) C D
12	来年度に向けての改善方策案 <ul style="list-style-type: none"> ・行事の前に、今年度の反省を確認し、当日どう行動すべきか指導を徹底する。 ・定着しつつあるボランティア活動へのより積極的な参加を呼びかけていく。 ・活動を通して生徒のリーダーシップを発揮させ、生徒による自主的な活動となるよう働きかけていく。 		

2	評価する領域・分野	◇ 図書部
3	現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間（課題学習）が有意義であると感じている生徒が多い反面、本校の施設・設備が学習環境の面で充分ではない。 ・生徒、保護者共に進路についての意識が高い。
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇ 「生徒や教師が利用しやすい図書館」また「生徒一人一人に豊かな心や生きる力を育成する図書館」をめざす。
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・職員による図書運営委員会との連携 ・生徒による図書委員会との連携
6	目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標
	(1) 図書運営委員による各科からの要望の実現	(1) 各教科の授業や各科の課題学習等で図書館が有

(2) 生徒による図書委員会の活性化 (3) テーマ展示の充実 (4) 閲覧、図書館利用マナーの指導	効活用されたか (2) 生徒の利用（年間貸出数）が増えたか (3) 未返却本、紛失本が減少したか	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> 購入希望書籍の早期購入、新刊本の紹介 特色ある資料収集と情報提供として「テーマ展示」の設定 図書委員会の広報紙「窓」の発行 未返却本をなくす指導の徹底 	① 授業での図書館利用状況 年間貸出冊数 ② 来館者数と利用マナー ③ 未返却本、紛失本	A B C D A B C D A B C D
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 昨年度と比べ、「テーマ展示」の充実や館内レイアウトの見直しなどにより年間貸出数が増え、生徒の利用状況がよくなってきた。 (H21 2,520冊 H22 4,091冊 前年比 162%増) ○ 蔵書点検結果から、汚破損の著しい本や内容の古い本を除籍できた。 ○ 書架の移動などによる館内配置の工夫により、紛失本が減少した。 ● 図書館を利用した授業のあり方、役立つ資料の収集と情報提供に努める。 	総合評価 A B C D
12 来年度に向けての改善方策案		
<ul style="list-style-type: none"> 役立つ資料の収集と情報提供を充実させるために、「テーマ展示」をきめ細かく紹介していく。 図書委員会の活動を支援し、生徒による生徒への広報の活性化を図りたい。 生徒、職員に「可児工図書館」の情報を発信する 		

2 評価する領域・分野	◇ 保健厚生部	
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・ 1年生の部活動全員加入制度により学年を追う毎に体力は増強してきており、部活動や体育の授業により過年度より遙かに新体力テストの成績が向上してきている。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇ 運動に親しみ、進んで健康で安全な生活を送る態度を養う。 ◇ 自らの健康に責任を持ち積極的に取り組む態度を養う。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保健だよりの充実と生徒各自の健康チェックの推進 ・ 体力の増強を目指した体育授業への積極的参加 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) SHRにおける健康チェック (2) チャイム&スタートの徹底	(1) HR担任や教科担任による健康チェックの励行 (2) 新体力テスト総合評価Aの増加	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> 体温計測や自覚症状による疾病重度化の防止 校内出入り口での消毒剤による殺菌やうがい手洗いの励行 体育授業欠席者及び見学者への補充授業の徹底 長距離走授業の充実 	①保健室利用者数の動向 ②部活動県上位入賞東海・全国大会出場	A B C D A B C D
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○健康チェックを実施したことで生徒の継続的な健康管理に努めることができた。 ○欠席遅刻連絡票の項目を詳細にすることで家庭との連携が密にできた。 ○部活動において昨年度以上の県大会入賞や東海・全国大会出場が見られた。 ○新体力テストにおいて過年度の倍以上のA判定者が増加した。 	
12 来年度に向けての改善方策案		
総合評価 A B C D		

- ・定期健康診断の結果、要精検や要治療生徒の積極的受診を図るため、HR担任を通じ学校と家庭との連携を密にしていく。
- ・新体力テスト実施前の体づくり運動を積極的に行い、更なる体力の向上と部活動の活性化を図る。

2	評価する領域・分野	◇ 環境保全部	
3	現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・今年度は掃除時間の編成について様々な意見があり、その中で各部署、学科、学年会などの意見を取り入れて9月・2月と掃除の配置換えの試行を行えた。	
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇「捨てない、汚さない、公共物を大切に作る心」の育生 ・「生命と安全」を第一に考え、校内環境の改善 ・校内美化活動の充実、好ましい学習環境の確保。	
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	・美化委員会組織の活動を通じ、校内美化意識の向上を図る。 ・職員による毎月の「安全点検カード」を利用した棄権・改善・修繕箇所などのチェックと用務員との協力体制を整える。	
6	目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
	(1) 一斉掃除の実施 (2) 長期休暇前の教室ワックス掛け (3) 毎月28日を「安全点検日」として設定 (4) 美化委員による花壇苗の植え替え (5) 「節電・節水」「環境美化」のポスター作成	(1) 校内清掃職員による目視 (2) 全職員によるアドバイス (3) 「安全点検カード」に記載された箇所への改善と対応状況の把握	
8	取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
	・美化委員による春と秋の花壇整備と苗の植え替え作業 ・年3回の「壁のよごれ落とし週間」設定 ・7月・3月の教室ワックス掛け ・文化祭時に「クリーン隊」を編成し校内ゴミ拾い ・「節電・節水」、「清掃美化」、「地震緊急放送」についての教室掲示 ・職員による「安全点検カード」の実施	①環境整備意識 ②節約・エコ意識 ③教室環境整備 ④教室・廊下・壁への意識 ⑤危険箇所や安全への意識	A (B) C D A (B) C D A (B) C D A B (C) D A (B) C D
11	成果・課題	総合評価	
	○「安全点検カード」の実施により、危険箇所や修繕箇所の改善が年々充実できたことで、見苦しい・汚い・危険といった箇所は減ったように思う。 ○全職員の取組により、生徒達の掃除への意識・汚さないといった意識が、ガムや飴の包みゴミの減少からみても感じられる。 ●校舎の老朽化に伴う修繕箇所の改善が今後増えてくると思われるので、早い段階での全職員によるチェックを今まで以上にしていきたい。 ●本館トイレの老朽化に対応した修繕を強化。	A (B) C D	
12	来年度に向けての改善方策案		
	・集会や美化委員会活動の行動により全生徒への美化意識や公共物を大切に使う意識を呼びかけをもっと強化したい。 ・避難訓練だけでなく、普段からいざれ起こりうる「東南海大地震」への意識と避難手順の徹底を掲示物など教室掲示や呼びかけなどをして意識向上を図りたい。		

【意見・要望・評価等】

- ・ 可児工業高生の姿は地域の人からいつも見られている。挨拶をよくしてくれるなど良い評価やおほめをいただくこともあるが、自転車での登校における交通マナーの点ではまだ十分ではない。今でも指導はしていると思うが、より一層の指導をお願いしたい。
- ・ 地域の行事（公民館祭や産業フェアなど）に積極的に参加していただき、地域として大変にありがたい。そこでの生徒の活躍により高校としての評価を高めている。さらに、生徒にとっても社会的な体験を積む良い機会になっていて、双方にとってメリットがある。
- ・ 今の時代は自己解決能力、コミュニケーション能力は最も求められる資質であるので、その育成に力を入れていただきたい。本校のように地域のイベントに多く参加し、交流を深めることはこの点ではとても役立つと考える。
- ・ 遅刻ゼロ週間の指導が、学習活動、基本的な生活習慣の確率、問題行動の大幅な減少など様々な相乗効果を上げている。ゼロ週間からゼロ習慣への移行は多いに評価できる。平成22年度の卒業生197人中75人も生徒が3年間皆勤ということは驚くべきことである。それを達成したのはもちろん個々の生徒の努力の成果だが、彼らを支えた保護者の力が大きい。子どもの成長には学校と保護者の両者が手を取り合うことが肝要だ。
- ・ 課題研究発表会での内容を見て、若い高校生の力を感じた。どの生徒もプレゼンテーションを上手にやっていた。高校生のうちからあのような発表の経験をするのは、あとで大きな力になる。あのように育てられた可児工業高校の教育力をさらにみがいて、活躍する生徒だけでなく、そうでない生徒にも光を当てていただきたい。
- ・ 可児工業高校の活躍が新聞紙上に多く取り上げられた。このことは在校生にとっても学校を誇りをもつきっかけになる。これからもこのような活躍が望まれる。
- ・ 22年度の進路指導は厳しい状況ではあったが、結果としては良かった。来年度以降さらに厳しくなることが予想されるので、ますます、進路指導の充実を願いたい。
- ・ 「キャリア教育」の推進については、教師だけの研修にとどめるのではなく、具体的な計画のもと、教務だけではなく、進路指導部、生徒指導、学年会、工業部などの協力を得ながら、23年度は全校態勢で具体的な取り組みを展開していくことが必要である。
- ・ 教育相談の必要な生徒が年々多くなっている現状があり、発達障がい疑われる生徒も少なからず在籍していて、そのような生徒の対応について、さらなる研修を行う必要がある。さらに、当該生徒について職員の共通理解や情報交換が必要である。
- ・ 大変古い校舎など生徒が学習活動をするには十分な環境だとはいえない。しかしそうした環境にもかかわらず清掃活動などまじめに取り組み、現在の施設設備を大事に使用する姿は評価できる。
- ・ 安全に対する意識では環境作りが大切で、職員がまず高い意識をもって生徒の指導にあたっていただきたい。